

乳児期の顔湿疹と膝裏浸出を経て治療した小児アトピーの経過 (2歳男児)

症例 ID：001-02-HSu | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後1か月頃から顔に湿疹が出始め、1か月健診では乳幼児湿疹とされました。その後も症状はあまり回復せず、耳切れも始まり、3か月健診でアトピー性皮膚炎の可能性を指摘されました。

当時は頭に白いかさぶたのようなもの、顔の赤い湿疹と耳切れ、上半身のざらつき、膝裏のジュクジュクがありました。複数の医療機関を受診しましたが、説明や方針に納得できず、紹介をきっかけに松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	来院前にステロイドは処方されていませんでした。
製品名	なし。
強度	該当なし。
使用期間	使用なし。
中止時期	該当なし。
来院前／後	来院前のステロイド使用歴はありません。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後1か月頃	来院前	顔に湿疹が出始め、1か月健診では乳幼児湿疹とされました。
生後3か月頃	来院前	耳切れや頭部のかさぶた、顔の赤い湿疹、膝裏のジュクジュクがありました。
生後5か月頃	治療開始	松本医院を受診し、その日の夜から治療を始めました。
治療開始1～2か月	初期変化	何回かのリバウンドを経験しました。治療法について確認しながら、黙々と治療を継続しました。
治療開始3～4か月	回復傾向	肌はみるみるきれいな状態へ変化していきました。
その後	経過後	風邪、下痢、発熱など何かあると受診する形で経過をみていました。

4. ピーク時期

ピークは来院前の生後3～5か月頃に、頭部のかさぶた、顔の赤い湿疹、耳切れ、上半身のざらつき、膝裏のジュクジュクがみられた時期と、治療開始後1～2か月の症状の波があった時期です。

5. 困りごと

・乳児期にアトピー性皮膚炎の可能性を指摘され、今後の生活への不安がありました。

- ・複数の医療機関で説明が少しずつ異なり、何を信じればよいのか分からない時期がありました。
- ・食事制限、湿度管理、清潔保持、掃除など、生活管理への負担感がありました。
- ・治療開始後のリバウンド期には、症状の波を見守りながら治療を続ける必要がありました。

6. 経過のまとめ

生後1か月頃から顔に湿疹が出始め、生後3か月頃には耳切れ、頭部のかさぶた、顔の赤い湿疹、膝裏のジュクジュクがみられました。生後5か月頃に松本医院を受診し、来院前にステロイド使用歴はありませんでした。

治療開始後1～2か月は何回か症状の波を経験しましたが、3～4か月で肌はきれいな状態へ変化していきました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。